

## 主題:あわれみ深い、忠信な、大いなる大祭司としての昇天したキリストの啓示、経験、享受

Overview: アウトライン I と II は、祭司と祭司職についての基本的な認識を提示します。主題と直接関係があるのは III から VII です。III と IV はあわれみ深い、忠信な、大いなる大祭司としての昇天したキリストの啓示であり、V から VII はそのようなキリストの経験、享受です。

### I. 聖書において祭司の基本的な意義は、祭司が神に仕えることではなく、祭司が神を人に供給することです:

- A. 聖書の祭司についての最初の記述は、祭司の原則を確立します。
- B. 聖書で「祭司」という言葉が最初に使われているのは、メルキゼデクにおいてです:
- ①聖書における祭司職の基本的な物語は、祭司が神から来て、神の何かを神の民に供給するということです: a) アブラハムが勝利を得た後、王なる大祭司としてのキリストの予表であるメルキゼデクが現れました。アブラハムが四人の王を殺し、ロトを回復し、勝利を得ることができたのは、メルキゼデクのとりなしを通してであったに違いありません。
- ②キリストは天の務めにおいて、メルキゼデクの位による大祭司と定められました。それは、アロンのように、罪のためにいけにえをささげるためではなく、肉体と成ること、人の生活、十字架、復活を経過した神ご自身(パンとぶどう酒によって表徴される)を、私たちに供給するためです。

基本的認識

### II. ヘブル人への手紙は、祭司職の三つの面についての書です:

- A. 第一の面はアロンの祭司職の面であり、私たちの罪のためにいけにえを神にささげるためです: ①アロンの祭司職は、神の当初の意図の一部ではなく、罪の問題のゆえに後ほど加えられたのです。
- B. 第二の面は王なる祭司職の面であり、神を私たちの中へと供給するためです: ①キリストは王なる大祭司として、私たちが必要とするものは何であれ、私たちに供給し、手順を経て究極的に完成された三一の神を、私たちの供給として私たちの中へと分与して、神の永遠の定められた御旨を完成します。
- C. 第三の面は神聖な祭司職の面であり、私たちを極みまで救うためです:
- ①キリストが王であることは、身分の事柄ですが、キリストが神聖であることは、構成要素の事柄、彼を神聖な大祭司に構成するのに必要な要素を持っている事柄です。
- ②神聖な祭司職は、不朽の命の救う力です。神聖な祭司職は命をもたらし、死を排除します。

### III. キリストは、あわれみ深い、忠信な大祭司です:

- A. ヘブル第 1 章と第 2 章は、キリストが完全に資格づけられて私たちの大祭司となることを啓示しています:
- ①彼は神の子であり、神聖な性質を持っています。②彼は人の子であり、人の性質を持っています。③彼は肉体と成って、私たちのようになりました。④彼は試みられ、試されました。⑤彼は死の苦しみを受けてました。⑥彼は私たちの罪のために、なだめをなしました。⑦彼は悪魔を滅ぼしました。⑧彼は私たちを、死の奴隷とされていたことから解放しました。⑨彼は復活の中で多くの兄弟たちを生み出し、召会を形成しました。⑩彼は高く上げられて、栄光と尊貴を冠として与えられました。⑪彼は私たちの救いの創始者、キャプテンです。⑫彼は私たちを助けます。
- B. キリストがあわれみ深い、忠信な大祭司となることのできるのは、彼が神の子であって、神性を持ち、また人の子であって、人性を持っているからです。

啓示

### IV. キリストは大いなる大祭司です:

- A. キリストは私たちの大いなる大祭司として、罪のないことは別にして、すべての面で私たちと同じように試みられました。彼は天を通過して行きました。彼は私たちの弱さに同情することができます。
- B. キリストは私たちの大いなる大祭司として、至聖所で神の御前に私たちを担っています: ①キリストは私たちのあわれみ深い、忠信な、大いなる大祭司であり、私たちは彼の肩(彼の担う力)の上と、彼の心(彼の愛)の上にあります。②キリストは至聖所で神の御前に私たちを担うとき、手順を経て究極的に完成された三一の神を私たちの存在の中へと供給します。
- C. 私たちはキリストの祭司職に応答し、あわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出るべきです。

### V. 大祭司としてのキリストは私たちが顧みっていますが、彼がどのように私たちが顧みるべきかについて、私たちはみな自分自身の思いと感覚を持っています。多くの時、何が私たちにとって最も良いか、ある事が起こった理由は何か、私たちはわかりません。大祭司としての主だけがその理由を知っており、彼が私たちが顧みることは常に積極的です:

- A. 使徒パウロが主に祈り、とげを取り除いてくださるよう彼に求めたとき、主は言われました、「私の恵みは、あなたに対して十分である。私の力は、弱さにおいて完全に現れる」。
- B. 主はとげを取り除くのではなく、ご自身を恵みとしてパウロの中へと分け与えて、主がいかに尊く十分であるかを、使徒が知ることができるようになりました。
- C. 私たちの大祭司としてのキリストに対するこの経験は、最高の経験と享受です。

経験  
享受

### VI. 究極的に、大祭司としてのキリストは神の必要と権益を顧みています:

- A. 神に対する私たちの祈りが、神のエコノミーにおける目標、すなわちキリスト、神の王国、神の家に向いているとき、神は私たちの祈りを聞いてくださいます。
- B. 私たちがだれのために祈ろうとも、私たちの祈りは、神の権益に、すなわち、地上での神の権益としてのキリストと召会に照準を合わせて、神のエコノミーを完成するべきです。

**VII. 昇天における大祭司としてのキリストの天の務めは、新エルサレムにおいて究極的に完成します。新エルサレムは、神性と人性のミングリングであり、人性における三一の神の拡張、拡大、増し加わり、表現であって、神のエコノミーの究極の目標として永遠に至ります。**

I. 聖書において祭司の基本的な意義は、祭司が神に仕えることではなく、祭司が神を人に供給することです:

創 14:18 その時、サレムの王メルキゼデクは、パンとぶどう酒を携えて来た。彼はいと高き神の祭司であった。19 彼はアブラムを祝福して言った、「祝福あれ、アブラムよ、いと高き神、天と地の所有者より。20 あなたの敵をあなたの手に渡されたいと高き神は、ほむべきかな」。アブラムは、すべての物の十分の一を彼に与えた。

II. ヘブル人への手紙は、祭司職の三つの面についての書です:

ヘブル 2:17 こういうわけで、彼はすべての事で、彼の兄弟たちのようにならなければなりません。それは、彼が神にかかわる事柄において、あわれみ深い、忠信な大祭司となって、民の罪のために、なだめをなすためです。

5:6 また神は、別の箇所ですべておられます、「あなたはメルキゼデクの位による永遠の祭司である」。

7:15 そして、メルキゼデクの様にしたがった別の祭司が起こっているからには、そのことはますます明らかです。16 この方は、肉の戒めの律法にしたがってではなく、不朽の命の力にしたがって立てられたのです。17 なぜなら、「あなたは永遠にメルキゼデクの位による祭司である」と証しされているからです。18 一方では、先の戒めが、弱さと無益のゆえに廃棄されましたが7:25 こういうわけで、彼を通して神に進み出る者たちを、彼は極みまで救うことができます。なぜなら、彼はいつも生きていて、彼らのためにとりなしておられるからです。

III. キリストは、あわれみ深い、忠信な大祭司です:

ヘブル 2:18 というのは、彼ご自身が試みられて苦しまれたので、試みられている者たちを、助けることができるからです。

IV. キリストは大いなる大祭司です:

ヘブル 4:14 こういうわけで、私たちは、天を通して行かれた大いなる大祭司、イエス、神の御子を持っているのですから、その告白をしっかりと保持しようではありませんか。15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情することのできない方ではなく、罪のないことは別にして、すべての面で私たちと同じように試みられたのです。16 ですから、私たちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか。

V. 大祭司としてのキリストは私たちが顧みていますが、彼がどのように私たちが顧みるべきかについて、私たちはみな自分自身の思いと感覚を持っています。多くの時、何が私たちにとって最も良いか、ある事が起こった理由は何か、私たちはわかりません。大祭司としての主だけがその理由を知っており、彼が私たちが顧みることは常に積極的です:

ローマ 8:28 また神を愛する者、すなわち、彼の目的にしたがって召されている者たちには、すべてが共に働いて益となることを、私たちは知っています。29 なぜなら、神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。

VI. 究極的に、大祭司としてのキリストは神の必要と權益を顧みています:

列王上 8:48 自分を捕虜として引いて行った敵の地で、心を尽くし魂を尽くしてあなたに立ち返り、そしてあなたが彼らの父祖に与えられた彼らの地、あなたが選ばれた町、私があなたの御名のために建てた家に向かってあなたに祈るなら、

ダニ 6:10 さて、ダニエルはその文書が署名されたことを知って、自分の家に行った。彼は彼の上の部屋でエルサレムに向かって窓を開けていた。そして日に三度ひざまずき、彼の神の御前に祈り、感謝をささげた。彼は以前から、いつもそのように行っていたからである。

エペソ 6:17 また救いのかぶとを受け取りなさい。さらにその霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を、6:18 すべての祈りと願い求めによって受け取りなさい。どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい。

VII. 昇天における大祭司としてのキリストの天の務めは、新エルサレムにおいて究極的に完成します。新エルサレムは、神性と人性のミングリングであり、人性における三一の神の拡張、拡大、増し加わり、表現であって、神のエコノミーの究極の目標として永遠に至ります。

啓 21:2 私はまた聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように整えられて、天から出て神から下って来るのを見た。

161 主を賛美する — 彼のすべてを含むこと

1

なんとほう富な主よ、なれはわがすべて;  
わがひつようすべて、なれ、満たされる、  
なれの「である」をほめ、わがれいははいす、  
ながほう富を享受し、かん謝あふれる。

4

ひとからおこされた せいなるさい司は、  
アロンのように召され、かみにつかえる。  
われのよわさ、にない、かみにもたらし、  
あいとちからにより、とりなし、保護す。

5

かみにつかわされた おうなるさい司は、  
メルキゼデクのように、かみのほう仕者。  
パンとぶどう酒もて かみをもたらし、  
てき時にきょうきゅうし、豊富を享受さす。

経験:①祭司の務めは、神を人々に供給することである

大祭司としてのキリストに関する主要な点は、彼が神に仕えるのではなく、神を私たちに供給することです。私たちは、祭司は神に仕える者であるという表面的な観念より、さらに深く入り込まなければなりません。だれでも、街頭の未信者を含めて、カトリックの司祭は神に仕え、香をたき、彼の「聖なる」任務を果たす者であることを知っています。…私たちはこの低い観念から、さらに高い観念へと川を渡る必要があります。神はあなたの奉仕を必要とするのではなく、あなたに彼ご自身を人々に供給してもらいたいのです。大祭司として、キリストの主要な仕事は、神を私たちに供給することです。キリストがあなたの内側でされることは、おもに神をあなたの中へと供給することです。これが私たちの大祭司です。彼は絶えず一つのこと、神を私たちの中へと供給することをしておられます。ある人は、メルキゼデクは神を供給しなかったと言うかもしれませんが。しかし、パンとぶどう酒は何のことでしょうか？ それらは何を表徴するのでしょうか？ パンとぶどう酒が表徴するのは、神が私たちの享受として、神が私たちに供給されて、私たちを新鮮にし、維持し、支え、強め、養うということです。それは、私たちが神のあらゆる豊富をもって成長するためです。これが祭司の第一義的な務めです。

#### 在職青年編

ローマ 15:16 それは、私が異邦人へのキリスト・イエスの奉仕者となり、神の福音の労苦する祭司となるためであって、ささげ物である異邦人が聖霊の中で聖別されて、受け入れられるためです。

クリスチャンであるあなたは新約の福音の祭司です。祭司の任務は神を人々の享受のために供給することです。人は大学でさまざまな技能を学びます。就職すると学校で学んだ技能を用いて、ビジネスに役に立つ技能を学びます。これらの技能はあなたにとって必要なものですので、あなたは必ず学校でよく学んで下さい。しかしながら、あなたが大学で文系、あるいは理系に進学しその領域で専門的な事を学んでも、人の本質的な必要は神を享受することであることを決して忘れて下さい。あなたはまず、自分自身が神を享受し、それから他の人に神を供給して下さい。これが新約の福音の祭司の務めです。

Ⅱコリント 4:16 こういふわけで、私たちは落胆しません。それどころか、私たちの外なる人が朽ちていっても、私たちの内なる人は、日ごとに新しくされていきます。

神が人の中に供給されると、人は新鮮にされ、維持され、支えられ、強められ、養われ、更新され、造り変えられます。神を享受すると魂の中の消極的なものは取り除かれ、魂の本来の機能、思いの中の冷静な理解力、感情の中の正常な愛、意志の中の柔軟さと力の機能が新しくされ、引き上げられます。神を享受することは、あなたの基本的な必要であり、あなたの仕事の効率を大いに引き上げることができます。神を享受しなければ、次の二つの問題を持ちます。

- 魂の中の思い、感情、意志がバランスをもって互いに支え合うことができない。それぞれが上手く機能し、助け合わないの、人の中で混乱と矛盾を生み出し、正常に機能することができない。
- 魂の機能のある程度発展させることができても、それを引き上げ、更新し、さらに豊かにすることはできない。神の新鮮な命がなければ、人の魂の各部分の機能は更新され、引き上げられることができないからである。

魂の三部分の機能が互いに機能合って、全体として正常に機能することについて、自動車为例証にあげることができます。車の基本的な機能は、「直進する、曲がる、止まる」です。そのために車台(プラットフォーム)の剛性、エンジンのパワー、トランスミッションが適切に力をタイヤに伝えること、ブレーキ性能の全てがバランス良く、互いに機能しなければ車として正常に機能することができません。エンジンだけが優れていても、他の機能が強くなければ、車は全体として正しく機能できません。在職青年の兄弟姉妹、あなたにとって毎朝 15 分間、主の御言葉を祈り読みし、神を享受することは、何と重要でしょう！あなたは、在職生活で、神を享受し、神をあなたの周りの人に供給する人になることができます。

経験:②大祭司の顧みのもとで、霊に戻り、大胆に恵みの御座に進み出る

ヘブル 4:14 こういふわけで、私たちは、天を通って行かれた大いなる大祭司、イエス、神の御子を持っているのですから、その告白をしっかりと保持しようではありませんか。15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情することのできない方ではなく、罪のないことは別にして、すべての面で私たちと同じように試みられたのです。16 ですから、私たちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか。

恵みの御座に進み出るとは、絶対に私たちの霊の中のことです。もし私たちが思いの中にいるなら、至聖所の中へと入って行くことは困難でしょう。もし私たちが魂の人であって、魂の荒野でさまよっているなら、至聖所から遠く離れているのです。…私たちが霊に戻るときはいつでも、天の門の中へと入り、天のはしごとしてのキリストを通して、天における恵みの御座に触れます。このためには、私たちの深みを刺し通し、霊をさまよう思いから切り離す、神の生ける言葉を必要とします。私たちは霊の中にいる限り、天の門を持っています。門の内側には恵みの御座があります。至聖所に入るには時間はかかりません。なぜなら、至聖所と私たちの霊との間には隔たりがないからです。私たちは深みから、「おお、主イエスよ」と言うときはいつも、直ちに至聖所の中において、恵みの御座に触れています。私たちは何と恵みの御座に触れる必要があることでしょうか！

#### 中高生編

中高生であるあなたは、学校の勉強と人間関係において、自分の霊に戻ることによって恵みの御座に進み出てください。恵みの御座に進み出れば、あなたは時機を得た助けとなる恵みを見出すことができます。時機を得た助けとは Timely help です。それは野球でいうと、味方のランナーが二塁や三塁に出塁しているとき、ヒットを打ち、点を入れることです。ランナーが出塁していないときにヒットを打っても点は入りません。良い打者になるためには、タイムリー・ヒットを多く打つ必要があります。そうすれば打点の高い、勝負強い打者になります。キリストは、あなたの学校生活で、いつもタイムリー・ヒットを打つ勝負強い打者です。天におられる大祭司であるキリストは、あなたをタイムリーに助けることができます。あなたが励ましを必要とするとき、恵みの御座はタイムリーに励ましを供給します。あなたが知恵を必要とするとき、知恵はタイムリーにあなたに供給され、あなたのタイムリーな助けとなります。

ヘブル 4:11 こういふわけで、その安息へ入るように、努め励もうではありませんか。不従順の同じ例に倣って、だれも倒れることのないようにしましょう。12 なぜなら神の言葉は生きていて効力があり、どんなもろ刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髄を切り離すまでに刺し通して、心の思考と意図を識別することができるからです。

Ⅱテモテ 4:22 主があなたの霊と共におられますように。恵みがあなたと共にありますように。

あなたがタイムリーな助けを得るために、霊と魂を区別することを学ぶ必要があります。あなたは自分自身で霊と魂を区別できると考えてはいけません。あなたには区別する能力がありません。しかし主に感謝します。神の言葉は生きていて、どんなもろ刃の剣よりも鋭く、魂と霊を刺し通し、識別することができるのです。魂と霊を識別するのなら、あなたは霊の中に留まることができます。霊の中に留まれば、霊は天の御座と繋がっているの、あなたは実際に恵みの御座に進み出て、そこでタイムリーな助けである恵みを見出すことができますのです。アーメン！

生活の中で以下のことを実行して下さい。

- 毎朝復興: 毎朝必ず 10 分前後の時間を使って、兄弟姉妹と主の御言葉を祈り読みする
- ドリップ・イリゲーションの祈りのグループに入り、毎日 1 分の祈りを聞き、1 分の祈りをする
- 各種集会に参加して、積極的に神の言葉を語る
- ネットゲームなどの依存症にならないように注意する。実際的には、自制するためにルールを決めて、やりすぎないようにする

## ヨハネ 11 章のマイルストーン: 死んだ人の必要—命が復活させる

By 神大 BSGOB/OG

ヨハネ 11:1 さて、一人の病んでいる人がいた。ベタニヤ出身のラザロであり、マリヤとその姉妹マルタの村の人であった。2 このマリヤは、主に膏油を塗り、自分の髪の毛で彼の足をめぐった者であって、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである。3 姉妹たちはイエスの所に使いを送って、「主よ、ご覧ください。あなたの愛しておられる者が病気で」と言わせた。4 しかし、イエスはそれを聞いて言われた、「この病気は死に至るものではなく、神の栄光のためであり、それによって神の子の栄光が現されるためのものである」。

11 イエスはこれらの事を話した後、彼ら(弟子たち)に言われた、「私たちの友ラザロが眠っている。しかし、私は彼を起こしに行く」。12 弟子たちは彼に言った、「主よ、眠っているのでしたら、良くなるでしょう」。13 イエスはラザロが死んだことを言われたのであったが、彼らは、眠って休んでいることを言っておられるのだと思った。14 そこでイエスは、彼らにはっきり言われた、「ラザロは死んだのだ。15 そして、私がそこに居合わせなかったことを、あなたがたのために大いに喜ぶ。それは、あなたがたが信じるためである。しかし、彼の所へ行こう」。

25 イエスは彼女に言われた、「私は復活であり、命である。私の中へと信じる者は、たとえ死んでも生きる。26 また、生きていて私の中へと信じる者はすべて、決して永遠に死ぬことはない。あなたはこれを信じるか？」27 彼女は彼に言った、「はい、主よ。あなたが世に来られるキリスト、神の子であると信じております」。

32 マリヤはイエスのおられる所に来て、彼を見ると、足もとにひれ伏して、彼に言った、「主よ、あなたがもしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょう」。33 イエスは彼女が泣いているのと、彼女と一緒に来たユダヤ人が泣いているのを見て、彼の霊の中で憤りを覚え、悩まされて 34 言われた、「あなたがたは彼をどこに置いたのか？」。彼らは彼に言った、「主よ、来てご覧ください」。35 イエスは涙した。36 そこで、ユダヤ人は言った、「見よ、何と彼を愛しておられたことか！」37 しかし、彼らのある者は言った、「盲人の目をあけた方でも、この人を死なないようにすることはできなかったのか？」38 そこで、イエスは再びご自身の内憤りを覚えて、墓に来られた。それは洞穴であって、それに石が置かれていた。39 イエスは言われた、「その石を取りのけなさい」。死んだ者の姉妹マルタが彼に言った、「主よ、もう臭くなっております。四日もたっていますから」。40 イエスは彼女に言われた、「あなたが信じるなら神の栄光を見ると、私はあなたに言ったではないか？」

41 そこで、彼らはその石を取りのけた。イエスは目を上げて言われた、「父よ、あなたが私の願いを聞いてくださったことを、あなたに感謝します。42 私は、あなたがいつも私の願いを聞いてくださることを知っていました。しかし私がこう言ったのは、周りに立っている群衆のためであり、あなたが私を遣わされたことを、彼らが信じるためです」。43 彼はこれらの事を言って、大声で叫ばれた、「ラザロよ、出て来なさい！」44 すると、死んでいた者は出て来たが、手足は布で包まれ、顔は布切れで包まれていた。イエスは彼らに言われた、「彼をほどいてやって、行かせなさい」。

1 節で病んでいるラザロの姉妹たちが主にいやしを求めに来ました。しかし、主は彼をいやしに来ようとしませんでした。これは、もし人が自分に何か問題があることを認めたとしても、自分が死んでいることを認めようとしないなら、主は彼を救うために来られはしないということです。なぜなら主の救いはいやしすることではなく、死人をよみがえらせることだからです。主の救いは人がいやされることではなく、人が生き返らされることです。いやしは改善の問題ですが、生き返らせることは命の問題です。主の救いは人の問題を改善することではなく、人が彼の命を受け、人を生き返らせることです。

ある姉妹は救われる前、喫煙習慣がありました。喫煙は肺がんをもたらす可能性が非常に高いことを知っていましたが、それをやめることができませんでした。しかし、主の命が彼女の中に入り、死人が復活させられることにより、喫煙という墓から出てくることができました。

主を賛美します。死んでいる者の必要は命を受けることです。死んでいる人がいやされる唯一の道は、命を受けることです。命だけが死に打ち勝つことができます。

人が死んでいることを証明するいくつかの事例:

- 死んでいる人は弱く、無力なので、善を行うことができない
- 死んでいる人は悪を行っているという意識、感覚がない
- 死んでいる人は罪の束縛の中にいる

死んだラザロは布で巻かれ、墓の中に閉じ込められていました。今日多くの人たちは罪の中に束縛されており、そして罪は彼らの墓です。

ローマ 7:18 私は自分の中に、すなわち、自分の肉の中に、善なるものが住んでいないことを知っています。なぜなら、私は善をしようと欲するのですが、善を行ない出すことはないからです。19 私は自分の欲する善を行わず、かえって自分が欲していない悪を実行しています。

エレミヤ 13:23 クシ人は自分の皮膚を、豹は自分の斑点を変えることができようか? もしできるならば、悪を行うのに慣れたあなたがたも、善を行うことができる。

フットノート: クシ人とはエチオピア人です。人々は神を捨て、邪悪になりました。彼らはすべてのものにまさって偽り、いやされることがない心を持ち、変えることができない、クシ人の皮膚や豹の斑点のような、変えられない罪深い性質を持ちました。これは墮落した人の真実の状態を暴露します。

人の真の状態は、病んでいることではなく、死んでいるということです。主の救いを受け入れるために、主の御言葉によって照らされ、自分が死んでいてどうしようもない状況にいることを知る必要があります。

25 節において、主は「私は復活であり、命である」と言われました。主だけが死んでいる人の必要に応じることができます。主の命は彼の言葉の中にあります。ラザロを死からよみがえらせたものは、「ラザロよ、出てきなさい」と言われた主の言葉でした。死んでいたラザロは主の言葉を聞いて、生き返らされました。ヨハネ 5 章 25 節は言います、「死人が神の子の声を聞き、そして聞く者が生きる時が来る。それは今である」。今日あなたも、主の言葉を聞くことで、あなたは生き返り、墓から出てくることができます。このことにより、あなたは確かに、むさぼり、嫉妬、ねたみ、激怒、姦淫、ギャンブル、喫煙習慣、墮落した映画、ネットゲーム依存症、LINE や Twitter などの SNS 依存症、その他の罪深い墓から出てくることができます。ハレルヤ!

25-26 節で主はマルタに、「私は復活であり、命である。私の中へと信じる者は、たとえ死んでも生きる。…あなたはこれを信じるか？」と尋ねられました。27 節でマルタはイエスに言いました、「はい、主よ。あなたが世に来られるキリスト、神の子であると信じております」。マルタのこの返答は主の質問に答えていません。彼女の古い知識、先入観が彼女を覆って、主の新しい言葉を理解するのを妨げました。人の古い知識や古い意見は、主の新しい啓示をはっきりと知ることを妨げる覆いです。あなたは主の御言葉に来るとき、自分の意見や知識を脇にやり、覆いのない顔を持って主に開いて、主に必要があります。そうでないと人の意見は主の救いを受け入れることを助けないだけでなく、妨げてしまいます。

309 (J241)

1 What a wonderful change in my life has been wrought

Since Jesus came into my heart!

I have light in my soul for which long I had sought,

Since Jesus came into my heart!

© Since Jesus came into my heart!

Since Jesus came into my heart!

Floods of joy o'er my soul like the sea billows roll,

Since Jesus came into my heart!

2 I have ceased from my wand'ring and going astray,

Since Jesus came into my heart!

And my sins which were many are all washed away,

Since Jesus came into my heart!

3 I'm possessed of a hope that is steadfast and sure,

Since Jesus came into my heart!

And no dark clouds of doubt now my pathway obscure,

Since Jesus came into my heart!